

二六一〇番

ぬばたまの 我が黒髪を 引きぬらし 乱れてな
ほも 恋ひ渡るかも

二六一一番

今更に 君が手枕 まき寝めや 我が紐の緒の
解けつつもとな

二六一二番

白たへの 袖触れにしよ 我が背子に 我が恋ふ
らくは 止む時もなし

二六一三番

夕占にも 占にも告れる 今夜だに 来まさぬ君
を 何時とか待たむ